Ｖ．あとがき

鋼橋技術研究会の改組にともない、昭和６３年度をもって当分科会は消滅することとなった。したがって、この報告書は最終の報告書である。

研究を開始した昭和６０年度より今日までに得られた、当分科会の主な成果は次のとおりである。

①挫折せずに、４年間で26回の研究集会（分科会）を続けることができた。

②２年に１度の割で、研究報告書をまとめた。

③「海外と我が国との鋼橋構造の相違」（正、続）を研究報告書に発表した。

④「鋼橋の継手」を研究報告書に発表した。

⑤鋼橋技術研究会の一員として「東南アジア橋梁事情調査団」（昭和62年11月）に参加し、その調査報告を雑誌「橋梁」に連載した。

海外橋梁技術研究部会の川口部会長より、研究報告書を濃縮して雑誌に発表するよう、再三にわたりご指示を頂いたが、ついに果たせず心残りである。

最後に、研究活動に熱心に協力して頂いた分科会員の皆様初め、ご指導を頂いた川口部会長、暖かく見守って下さった会の運営幹事各位には深く感謝申し上げるとともに、鋼橋技術研究会のますますの発展を祈ります。

（　分科会長：森田泰生　　記　）